

2024（令和6）年度市政懇談会 開催結果概要

- 日 時 令和6年7月31日（水）午後3時00分～
- 会 場 阿寒湖まりむ館
- 参加者 10人

〔副市長より説明（別途資料参照）〕

- （1）都心部のにぎわいづくりについて
- （2）災害時の避難所について
- （3）阿寒湖温泉地区の取組について

●質疑応答

【参加者A】

宿泊税について、釧路市は北海道とまた違うやり方を検討しています。今まで決まっていらないと思いますが、どういう部分で北海道と違うやり方になったのでしょうか。

また、宿泊税を取ることで3億円ぐらいになるそうですが、その使い道をわかる範囲で構いませんので教えてください。

【吉田副市長】

宿泊税につきましては、釧路市においても新たに設けたいということで、協議会を作らせていただきました。北海道では「段階的定額制」という形式で、宿泊料金の額に応じて宿泊税の額を変動させるという案が提出されました。

それと違う形で、協議のためのたたき台として釧路市から提案したのが、宿泊料金の多寡に関わらず、まずは200円をいただく案です。この提案の根拠としましては、宿泊税によって整備されるものは、払った金額が違う人の負担割合に応じて変わるものではないという考え方です。例えば、宿泊料金を10万円支払った人も2万円支払った人も、整備されたものを利用するという点では同じではないでしょうか。「負担の公平性」という意味で考えれば同額にするべきではないだろうかとの考えから、たたき台をそのように決めました。そのたたき台に対してのご意見を皆様からいただくために、現在協議を進めているところです。

仮に宿泊税を200円として、これまでの釧路市の宿泊実績を参考に単純計算すると、約3億円規模の税収になると考えています。この税収の使い方についても、今後しっかりと皆様に同時にお示ししていくことが大事だと思っています。

現在、観光を所管する部門において使い方を検討しており、今後、検討内容を皆様にお示しする中で、その使い方が果たして適当であるのかどうかを協議していただこうと考えていますので、もう少しお時間をいただきたいと思っています。

【参加者B】

新ホテル開業の話があります。国の方では、先々週くらいに、全国33か所の国立公園に海外の有名ブランドホテルの誘致を進める方針が出されました。

私たちのような小さな所でも毎日のように外国人のお客様がいらっしゃいますので、外国人のお客様が大変多いというのは感じており、そういう時代になってきたのかなと思います。このホテルの進出というものを始まりとして何が変わっていくのかということ、私たちは本当に勉強して心配しなければならない状況にあります。新しいホテルの方からの要望としても、まちなかのにぎわいづくりを是非進めてほしいという話があります。

まずは食です。1泊2食というのは全く日本的な風習というか制度のようなもので、海外はほとんど1泊朝食付で、夕食に関してはまちなかに出て、まちなかの文化を感じながら土地の美味しい物を食べるというのが通常です。ですから、私たちもその準備をしなければならないと思います。

この問題一つとっても、いろいろな課題が浮かんできます。阿寒湖温泉内部で新しい店舗を開拓するという形が本来は良いのだろうと思います。そうすると住宅問題がある程度軽減されてくるのですが、そういう状況下にはないのだろうと思っています。私たちはどこか新しく進出してくれる所が無いだろうかという動きを、実は少ししているのですが、1番の問題はやはり店舗の確保です。それと住宅の確保、働いてくれる人の生活環境です。

新しいホテルの従業員は130人くらいと聞いています。そこで私たちが検討していきたいのは、阿寒湖外からの進出を是非促したいと思っています。例えば、食事と言えば、居酒屋さん・お寿司屋さん。今、外国人に人気があるのはうなぎ屋さんだそうです。そういう展開をしていかなければならないとなった時に、誘致施策として示せるような条件提示が欲しいと検討しているところです。

より具体的にはご相談を差し上げることになると思いますけれども、ホテルの誘致はこの3年と言われていますので、3年後ぐらいを目標に展開をしていただけるような活動をしたいと思っています。是非、ご理解・ご協力をお願いしたいです。

【秋里副市長】

先ほど1泊2食が日本では通常のことだけど、海外では1泊朝食付という形で夕食を外で食べるという話がありました。そういった意味ではやはり魅力ある飲食店と言いますか、できればその地域の特産品を使った飲食店が立地してくることが旅の目的の一つになると思っています。

立派なホテルや自然環境、さまざまな体験も大事ですけど、やはり人間は食べる物にすごく魅力を感じるものだというのは常々言われていますので、美味しい食を発見できる飲食店などを誘致してくるというお考えがあるということは、非常に頼もしいことだと思っています。

私ども行政としては、そのようなお店が立地する時にどのようなところでサポートできるだろうかと考えています。例えば、情報のことも1つあります。他には立地する時にさまざまな支援措置を用意して、阿寒湖温泉地区にも2つの商店街があるかと思えますし、阿寒湖の商工会にも入っているだろうと思

ます。地元の人にはいろいろな情報があるかもしれませんが、それ以外のところにはなかなかまだ伝わっていないかもしれませんので、そういった部分について、この阿寒湖温泉地区の飲食店の魅力を一層高めるための整備、それから誘致ということにつきましては、行政のさまざまな分野、行政センターや産業振興部もそうですし、観光振興担当のセクションも協力する必要があります。国がこれから国立公園に力を入れてくることの表れが今回の内閣総理大臣の発言だと思います。それに合わせた対応についてはしっかりと準備をしていると思いますので、さまざまなところにご相談をしていただければと思いますし、各セクションが自分事として考えていく形で相談をしていただければと思います。

【参加者B】

やはり、マリモの話をしなくてはいけないと思っています。今月の初めの科学委員会において、その後の対応というのはどうなっていますか。いろいろな情報から見て、科学委員会というものの立ち位置をどうしていくか、科学委員会が決めているのか、そうではないだろうというのが1点。

これは非常に精神論ですが、地元の研究者が少しマリモを研究材料にしているのではないかと私は感じます。マリモに対する愛はどこにあるのだろうか。マリモを守ってきた阿寒湖の歴史をもう一度、研究者あるいは科学委員会の人たちに見直してもらいたいと思っています。地域の人たちがどれだけ汗を流して現在まで守り続けてきたか。研究だけではないでしょう。今月あれだけ話題になったのに、その後の状況がわからないのです。もう少し細かく対応をお願いしたいと思っています。

【秋里副市長】

科学委員会の話ですが、報道のとおり大変な部分があるものと思います。阿寒湖のマリモは特別天然記念物で、この大型球状マリモが阿寒湖にあるということは地域の誇りであり、日本全体の財産だろうと思っています。

これを守るために、地域の方々が本当にこれまでいろいろな取り組みをしてこられたという歴史があつてのことだろうと思っていますし、非常に重たいものだと思います。

今月科学委員会が開かれましたが、地域の声がある中で、市からもさまざまな提案をしておりますが、水草の状況、これまでの研究の関係などさまざまな要素がある中で、どのような形でマリモを維持して守っていけるのか。皆さんの願いは大型の球状マリモがしっかりとここにあり続けることだと思います。そのためには関係者の皆さんの知見を総動員してやれることをすべきであり、さまざまな省庁や私ども行政もそのためにあるものと思っています。

ただ、専門的な知見からの助言をいただくために科学委員会があり、その中で議論を行いながら進めていく必要があるということです。議論の中で、足りない資料があれば追加をしていきながら、協議が継続されているという状況です。

私ども行政としては、阿寒湖の大型球状マリモを守るためにやれることは全部やるのだという考えですので、有識者の意見や科学委員会の意見ももちろん大事となりますことから、しっかりと議論をしていただきながら、この地域が

守ってきた地域の宝を意識してもらえそうな取り組みとなるように働きかけていきたいと考えています。

【参加者B】

本当に多くご理解をいただいていると思います。マリモに関して言えば、どう取り組んだのか、どう取り組んでいるのか姿勢をしっかりと見せてほしいと思っていますし、阿寒湖温泉地域の住民のみなさまの理解をいただけるようなコミュニケーションを取っていきたいと思います。

【参加者B】

この先、新しいホテルが進出することによって、まちは変わらざるを得ない状況です。その中で、今の世界の流行から考えると、やはりアクティビティ、特に冬のアクティビティです。阿寒湖温泉が観光地として非常に恵まれているのは、湖があるということです。湖と山を生かしたスキー場の開発をして、夏も利用してもらえるように整備していきたくと思っています。スキー場の開発というのはそれほど簡単な話ではないし、お金もたくさんかかる話ですけれども、これはじっくりご相談をさせていただきたいと思います。湖を上方から見下ろすロケーションをうまく利用して、非常に狭いエリアですけれども、非常にまれな自然環境を持ち合わせていますので、これらを生かしたまちづくりをお願いしたいです。

【秋里副市長】

この阿寒湖温泉地区につきましては、やはり観光業、それからアイヌ文化とともに発展してきたという理解をしています。そういった意味では、この地域の方々がしっかりと立ち続けられるよう、皆さんたちがより振興していけるよう、また将来に向けて希望を持てるような取り組みを行政の各セクションそれぞれが考えていきたくと思っています。

参加者の方からはさまざまな期待の声もありましたし、まだまだやっていきたいという声もございました。皆様も取り組んでいただけていると思いますし、私どもとしても一緒になってしっかりと取り組んでいかなければならないと考えていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。私ども行政は地域の発展のためにあるという風に考えていますので、そういった意味でさまざまな地域の声を聞かせていただき、それに沿って進めていきたいと思っています。